

# 傍聴者の声

塩沢寿学級 齋藤 廣仲 さん

塩沢寿学級は、地区の高齢者が集う学習の場で、様々な講座、レクリエーション、研修等を行っています。今回は「議会傍聴」でした。日頃、国内外の主な出来事については新聞、テレビ等を通してある程度分かっていますが、身近な市政についてはどうでしょうか。

傍聴した議会は9月定例会でしたが、真剣な質問、そして丁寧な回答、議員の方や市当局と一緒にあってよりよい二本松市を目指していることが感じられました。

当たり前のように過ごしている日々の暮らしは、議会や市当局、多くの団体、市民の活動によって支えられていることに改めて気づかされました。私たちはもっと市政に関心を持ち、参加していくことが大事だと思います。



塩沢寿学級のみなさん



インターンシップの学生のみなさん



9月7日 9月定例会を傍聴されたみなさん

福島大学 中川 萌絵 さん

このたび、議会傍聴に参加させていただいて、議会に対して持っていた印象の変化を実感しました。というのも、議会でもどのようなことが行われているかに関しては以前に学習したことはあるものの、具体的な内容については理解が及んでおりませんでした。そのため、議会は議論をする場所という曖昧な印象を抱いていました。しかし、実際にその場に立ってみると、私たちの生活に寄り添った議題で活発な議論が行われていました。今回の経験を経て、議会は私が今まで抱いていた印象とは異なり、自身の住む街がより住み心地の良い場所となるために議論を行う場なのだという認識を改めて持つことができました。

福島大学 星 央斗 さん

議会傍聴のなかではデータを使った論理的な意見、ときには訴えかけるような意見を話す議員さんたちから、二本松をよりよくしていきたいという熱い思いが伝わってきました。また、課題への考え方や説明の仕方などは今後の活動の参考になると思い、特に注目して傍聴しました。

どれだけ議員さんと市が話し合っても、住民の協力がなければ地域課題は改善されません。そのため、議会を傍聴し、どんな人が市の問題に向き合っているのかを知るだけでも、重要なことだと思いました。

今回、傍聴に参加したことで今まで以上に地域課題について関心を持つことができました。今を生きる若者として、この経験をこれからに活かしていきます。

福島大学 二本柳 夏穂 さん

議会傍聴に参加してみて、人々の暮らしに根づいた議論をしているのだと実感した。パートナーシップ制度についてやマイナンバーカードについてなど、日本の現在の状況に合わせた質問が多く、また、二本松市をよりよくしたいという気持ちが伝わってきた。

特に驚いたのが、予算の使い道に関する質問で、答えがタクシーの料金を賄うというもので、予算の使い方はそこまで詳細に知らされていないのかと思ったとともに、細かいところまで使い道を確認するところが、議員がいるから正しいお金の使い方ができているのかもしれないと感じた。

二本松市民以外でも参加することで他の自治体の勉強にもなるし、自分の地元に戻元できると考えた。

## 編集後記

季節は爽りと紅葉の秋を迎えております。今年の稲作の出来はいかがだったでしょうか？自然界へ作物の収穫に感謝を捧げる秋祭り、市内でも多くのお社にお供えが奉納されています。稲作文化を祖先から受け継がれてきた日本人の営みです。

9月定例会では、今年度一般会計補正予算案や前年度分の一般会計・企業会計等決算の内容を審査して議決いたしました。

議会は二本松市発展の為、市政の面輪として毎議会において是非々の議論を尽くしながら精進してまいります。  
(武藤)



編集委員会  
委員長  
副委員長

安齋 政保  
齋藤 徹  
齋藤 広二  
坂本 和広  
武藤 清志  
高宮 彦  
三木 剛